

つながりのある教育 ～保幼小の連携～

流山市幼児教育支援センター附属幼稚園長

たなか あきこ
田中 明子



1 はじめに

流山市では、「学びに向かう力」と「自立する子ども」を育む教育の土台に「幼保小中つながりのある教育の積極的推進」を学校教育指導の指針に掲げている。本園は、本市唯一の公立幼稚園であり、駅からも近く、小学校・保育所が隣接し、教育環境に恵まれている。

2 園目標

「えがおいっぱい げんきいっぱい やるきいっぱい」

3 小学校・保育所とのつながり

5月の初旬、小学校・保育所・幼稚園が集まり、今年度の交流に関する年間計画を話し合い、決定した。交流を続けていくためには、管理職や担任が顔を合わせ、交流会の意義や必要性を共通理解し、話し合う場を持つことはとても大切なことと考える。

7月、小学校で七夕飾りの制作を行った。年長児は、広い体育館に入り緊張している様子だったが、温かい言葉や歌の歓迎を受け、安心したようだった。手をつないで教室まで連れていってもらい、1年生の席に座らせてもらう頃には、笑顔がこぼれていた。

1年生は、手を取って一緒に折り紙を折ったり、はさみで切るところを鉛筆で書き加えたりして、年長児に分かりやすいように優しく教えてくれた。



11月末、2年生が生活科で準備したゲーム屋「わんぱくまつり」に保育所や幼稚園の園児がお客として招待された。折り紙こま、空気砲、缶笛等、20のお店が体育館に立ち並び、お祭り気分が盛り上がった。楽しく遊ぶ中で、お兄さんお姉さんに優しく接してもらった経験が、幼稚園で行うお店屋さんごっこに生き、今度は自分が年少の子に優しくしたいという思いにつながった。



2月中旬「ようこそ小学校への会」では、年長児が1年生の教室で、ランドセル・トイレ・給食白衣体験等、小学校に行くことが楽しみになるような体験をした。

運動会練習の見学やマラソン大会、芸術鑑賞等、年間を通じて複数回交流を行うことで、幼稚園とは違う学校の雰囲気慣れ、就学への不安感を和らげることができている。また、小学生に対するあこがれ、就学への期待感を育てることにつながっている。

4 おわりに

幼児教育の基本である「環境を通して行う教育」の最大の環境は「人」と考える。隣接する小学校や保育所だけでなく、中学生、高校生、地域の方々等とのつながりを通して人とふれあうことの心地よさ、温もりを感じさせ、思いやりの心を育てていきたい。

ICTを活用した授業づくり

県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当

1 新学習指導要領におけるICTの活用

新学習指導要領では、総則において「情報活用能力」を言語能力、問題発見・解決能力等と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け、教科横断的に育成することが示された。また、小・中・高等学校・特別支援学校の全てにおいて、ICTの環境整備とコンピュータ等を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められ、環境整備だけでなく教員のICT活用指導力の向上も急務となっている。

小学校の総則におけるICTの位置付けは、次のとおりである。

情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること

更に、各教科の特質に応じ、次のような学習活動を計画的に実施することとしている。

- ・児童がコンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動
- ・児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動

2 ICTを活用した授業例

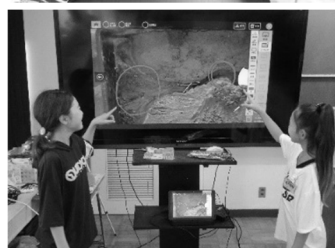
主体的・対話的で深い学びの視点でICTを効果的に活用した授業例を紹介する。

旭市立三川小学校 鳥海 悟 教諭
5年理科「流れる水のはたらき」

(1)タブレット端末で実験前、実験後の写真を撮る。実験中の水が流れている様子を動画に撮る。

(2)実験前後の写真を見比べる。動画を観て、土地が変化していく様子を確認する。

(3)写真に書き込みをした画像や撮影した映像を大型提示装置に映し、説明する。
(4)各グループの映像を大型提示装置に映し、ポイントを確認する。



3 すぐにできることから

これまでICTを活用することがほとんどなかった教室で、操作が複雑な機器を使用することは難しい。そこで、大型提示装置や実物投影機、タブレット端末の活用をお勧めする。授業力の向上に向けて、設置されている機器を日頃から授業の中で積極的に活用することから始めていただきたい。